

## = 第 2 章 =

### 学校、市町村教育委員会の具体的な取組

第2章では、学力向上に向けて成果を上げている学校や市町村教育委員会の具体的な取組を紹介しています。

それぞれの実践について、「6つの提言」との関連が分かるように掲載しています。

# 3つの柱に基づいて重点的に取り組む6つの提言

道教委では、昨年度、平成20年度全国学力・学習状況調査の調査結果をとりまとめた「平成20年度全国学力・学習状況調査調査結果報告書（北海道）」において、調査結果の分析による傾向と考察から、3つの柱に基づいて重点的に取り組む事項として、3つの柱からなる6つの提言を掲載し、その取組を促してきたところです。

## 柱1

### 主体的に学び、学ぶ意義や価値を理解する

～自分の身に付けた力を確かめようとする意欲や態度、学習習慣を身に付けさせる～

柱1にかかわっては、児童生徒が日常生活の中で、学習時間を増やすなど学習に取り組む機会や場を豊かにし、進んで学習できるようにする取組を充実する必要があります。特に、日ごろから熱意をもって学習に取り組んだり、学校以外においても、自ら学習するなど、学習習慣を確立したりする取組を工夫することが重要です。

## 柱2

### 基礎・基本を確実に習得する

～新たに分かったことや使うことができるようになった知識・技能を剥落しないよう確実に身に付けさせる～

柱2にかかわっては、児童生徒が知識・技能を確実に身に付けたり、身に付けた知識等を確かめたりすることができるよう学習活動や指導計画などの工夫を図っていく必要があります。特に、一人一人の学習状況を的確に捉えて、繰り返し指導を行ったり、発展的な学習を取り入れたりすることが重要です。

## 柱3

### 日常生活を充実する

～学校、家庭、地域との間に「確かな学力」について十分な共通理解を図り、児童生徒の学力や学習状況を共有し、それぞれの機能を十分に発揮させる～

柱3にかかわっては、児童生徒が日常生活の様々な活動がよりよいものとなるよう、学校、家庭地域がそれぞれの機能を十分に発揮し、一体となった教育を一層推進する必要があります。特に、保護者や地域住民と共に児童生徒の生活習慣を定着させたり、地域を学習の場として活動を展開したりする取組を工夫することが重要です。

# 道教委からの6つの提言

6つの提言には、それぞれの具体的方策が示され、各学校においては、これらを参考にした学校改善プランを作成し、学力向上に向けた取組を推進しています。

## 柱1 主体的に学び、学ぶ意義や価値を理解する

### 提言①

#### ■学ぶ楽しさを実感させる■

〔教育委員会、学校等が取り組む具体方策〕

- 児童生徒が、学びの意義や価値を理解することができる学級の雰囲気作りや集団づくりなど、学級経営の充実に努めます。
- 学習の目標を明らかにし、自己の学習状況に応じた学習内容を紹介し、学習を振り返ったり、新しい問題に挑戦するなど、児童生徒が学習の見通しを立てることができる学習活動を位置付けます。
- 毎朝の短い時間で、問題集や小テストに取り組んだり、朝読書に取り組めます。
- ある一定期間の放課後に、「自学進め方講座」等を実施して、学び方を身に付け、主体的に学んだ成果を実感できるようにします。
- 授業の学習内容と朝や放課後の学習内容の関連を図り、継続して学習を進め、予習や復習の大切さを実感できるようにします。

### 提言②

#### ■授業以外の学習の機会や時間を確保する■

〔教育委員会、学校等が取り組む具体方策〕

- 自主的な学習態度を身に付けるために、学級活動で家庭学習について考える時間を確保します。
- 授業における学習内容の定着を図り、自らの学習状況に応じて学習内容を選択して取り組むとともに、家庭学習の習慣化を促す学習相談を行います。
- 授業で学習した内容にかかわる課題を与え、家庭学習で取り組めるようにし、児童生徒が自分の知識・技能の定着の状況を把握するようにします。
- 家庭学習で定着した知識・技能を活用して新たな課題を解決する経験を重ねるようにします。
- 家庭学習の状況等を記録する「家庭学習シート」を活用して、児童生徒が自らの取組を把握し、学習の状況を把握します。

## 柱2 基礎・基本を確実に習得する

### 提言③

#### ■子どものつまずきをフォローする■

〔教育委員会、学校等が取り組む具体方策〕

- つまずきやすい内容を重点的に指導したり、繰り返して学習する内容を指導計画に効果的に位置付けます。
- 学習状況に応じ、個別指導やグループ別指導などきめ細かな指導を行い、個に応じた指導の充実に努めます。
- 単元の終わりなどで、児童生徒の自己評価を位置付け、繰り返し指導や時間をかけて学習した内容が定着しているか、児童生徒自身が把握します。
- 学習状況や児童生徒の実態などに応じた評価問題を活用し、児童生徒が身に付けた知識や技能等や定着に課題が見られる学習内容を把握します。
- 学力調査のA問題(※)を分析し、学習した知識・技能等が確実に身に付けることができる学習指導の工夫を行います。

### 提言④

#### ■学習と日常生活のつながりを意識する■

〔教育委員会、学校等が取り組む具体方策〕

- 児童生徒がこれまで身に付けた学習内容を確認し、今後の学習のどの部分で活用することができるかを考え、自分だけの学習計画を立てて取り組みます。
- 児童生徒がこれまで身に付けた知識・技能等を活用して課題の解決の方策を考えることができる体験活動を位置付けます。
- 実生活における事象との関連を図ったり、身近な素材を用いて学習を展開したりして、児童生徒が自分が身に付けた知識・技能を積極的に活用することができるようにします。
- 児童生徒の興味・関心を生かした学習指導を展開し、児童生徒が自分が身に付けた知識・技能等を積極的に活用することができるようにします。
- 学力調査のB問題(※)を分析し、身に付けた知識・技能等を活用して課題を解決するよさを実感するなど、知識・技能等を具体的に活用するイメージをもつことができる学習指導の工夫を図ります。

## 柱3 日常生活を充実する

### 提言⑤

#### ■生活のリズムを整える■

〔教育委員会や学校と家庭等が協力して取り組む具体方策〕

- 教育活動の中で、物や時間を大切にすることについて、児童生徒自身が自覚することができる指導を行います。
- 1日や1週間の学習の内容や量を振り返ることができるよう、帰りの会などで生活記録する機会を位置付けます。
- 学校便り等で家庭学習の意義の重要性を説明するとともに、家庭学習の内容や時間などの目安を示します。
- 「早寝早起き朝ごはん」を家族みんなで取り組んだり、家庭で、テレビをつけずに家族で会話する時間や読書の時間を確保したり、家庭生活について、「我が家の決まり」などを設けたりします。
- 「おはよう」「ただいま」など、生活の節目として大切なあいさつを家族みんなで実践したり、その大切さについて実感したり、話し合ったりします。

### 提言⑥

#### ■地域住民の力を学習に生かす■

〔教育委員会や学校と地域等が協力して取り組む具体方策〕

- 退職教員等をボランティアとして活用し、放課後や休日を活かした学習の支援をします。
- 公民館や公立図書館等において、学習内容や家庭学習の進め方等についての学習相談を行います。
- 学生や地域住民を外部講師とする学習活動の支援や児童生徒の安全を守るボランティア活動を進めます。
- 学校行事と町内会事業の関連を図り、地域の教育力を活用した効果的な体験活動を展開するようにします。
- 児童生徒が身近に活用することができる地域素材の教材を作成するためのワーキンググループを立ち上げ、校区内における体験活動の充実に努めます。